



輝く 恵那人

222人目



明智町大栗
おざわ たつお
小澤 建男さん (79歳)

□プロフィール

趣味は、マイカーの手入れや、友人たちと楽しむ月に2回のゴルフ。今は、時間を見つけて山仕事や田植えの準備をしている。最近初めてのひ孫が生まれた。



▲取材を受ける小澤さん (平成5年10月撮影)

製糸を地場産業として栄えた大正時代の姿をそのままに、建物や歴史、文化、人情などに触れることができる日本大正村。そこで理事長を務めるのが、小澤建男さんだ。小澤さんは、昭和37年に明智町役場に入庁した。企画商工観光課や農林課などで町づくりに携わり、退職後は明知鉄道の専務や市議会議員を歴任した。令和3年、明智町のことをよく知っている小澤さんに、ぜひ理事長をやってほしいという周りの後押しで、日本大正村の理事長になった。「訪れたら安心して、懐かしさを感じられる大正村は、日本人の心のふるさと。大正時代の文化や人の心を継承していくためにやるしかないと思う」と当時を振り返る。

平成10年ごろのピーク時、年間約45万あった来村者は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、現在は約1万5千人に落ち込んだ。しかし、山城ブームで明知城の人気が出たり、明智町が生誕の地とされる明智光秀の企画展を開催したり、洋画家の山本芳翠の絵画を展示したりして来村者を伸ばしてきた。現在は、より多くの方に来てもらうため、旅行会社や報道機関へのPR活動に力を入れている。施設の管理や土産の販売などは、町のボランティアに支えられている。「来てくれる人をみんなで温かく迎え入れることが大切」と運営への意欲と有志への感謝は常に忘れない。毎年5月3日の「ちよつとおんさい祭り・光秀まつり」では、バザーや明智光秀の武将行列、火縄銃演武が行われる。「光秀まつりは、今回で50回目。盛大なイベントにしたい」と意気込みを語る。

来年で立村40年を迎える大正村。「日本人の心のふるさとを守り続け、更に飛躍したい」と話す小澤さん。今日も、大正時代のロマンがあふれる日本大正村で、人々を温かく出迎える。

町のふるさと、日本大正村を守る 町づくりの経験生かして



その他の話題もウェブサイトに満載

News & Topics まちのわだい

3/16

中村いてうさんが解説
浮世絵に描かれた歌舞伎



恵那観光大使で歌舞伎俳優の中村いてうさんを招いたトークショーが、中山道広重美術館で開催されました。中村さんは、浮世絵作品に描かれている歌舞伎役者の顔の特徴や、歌舞伎の魅力の分かりやすく解説し、参加者と一緒に企画展を楽しみました。

3/12

地域を守る人へ
市少年消防隊の修了式



市少年消防隊の修了式が開催され、6年生47人が、2年間の活動内容や今後の抱負を保護者や関係者の前で発表しました。市少年消防隊の安藤摩斗生隊長は「市少年消防隊での貴重な体験を忘れず、古里を守るようになります」と力強く述べました。

3/28

伝統文化を受け継ぎ支える
県伝統文化継承者表彰を受賞



中山太鼓保存会(串原)の大島三三三さん、大島正昭さん、松井悟さんと、東野歌舞伎保存会(東野)が県伝統文化継承者表彰を受賞しました。同表彰は、郷土で育まれた伝統芸能の継承や振興に貢献している個人や団体の功績を称え、県が毎年表彰を行っているものです。

3/19

4年ぶりの開催
日本大正村クロスカントリー



4年ぶりに、第37回日本大正村クロスカントリーが明智町で開催されました。大会には、開催を待ち望んだ1,278人がエントリー。晴天のもと、ランナーは日本大正村の浪漫あふれる町並みと起伏に富んだ里山林間コースを駆け抜けました。

4/1

心躍る演奏と柔らかな光が
城下町を包む



「いわむら城下町のひなまつり」の関連イベントで、音楽祭と宵のひなまつりを開催され、音楽祭では太鼓チームなどが会場を盛り上げました。日が沈むと、岩村の子どもたちが作成した灯籠が夜の城下町を優しく照らし、訪れた人たちは、幻想的な明かりに見入っていました。

4/1

明智町と上矢作町で
自主運行バスの出発式を開催



誰もが利用しやすい移動サービスを提供するため、新たな自主運行バスの運行が始まりました。明智町では、市街地を巡回するまちなか線と、予約に応じて運行するデマンド交通が、上矢作町では、予約に応じて運行するデマンド交通が新たに導入されました。